

令和5年度 学校自己評価 中間報告書

石川県立七尾特別支援学校輪島分校

重点目標		具体的取り組み	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	中間結果	分析（成果と課題）
1	授業実践力の向上	① 国語に重点を置き、学部研究の中で指導内容が分かる資料として国語の「教科ファイル」を作成する。授業実践を行い、教科の視点での評価を明確にしたり教材を検討することで授業改善につなげる。	学習支援課	知的障害のある児童生徒を対象とした特別支援学校における教科指導の充実事業に合わせ、本校における教科指導の充実を図ることとしている。	【努力指標】（教員） 教科の視点で授業計画を立て、「教科ファイル」を活用して授業内で使用した教材について評価し、授業改善につながる取り組みを行っている。	教科の視点で授業計画を立案、実践して教材について評価し、授業改善に取り組んだ教員の割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。 【達成目標B以上】	授業改善について教員にアンケートを実施。その結果、教科の視点で授業計画を立案、実践して教材について評価し、授業改善に取り組んだ教員教員の割合は85.7%であり評価はA。 【A：80%以上である。】	学部ごとに国語の授業で使用している教材を紹介し合い、意見交換を行ったことで、授業内容の工夫や改善につながったと感じている教員がほとんどである。一方で、生徒の実態に応じた教材を模索している段階で、実感として改善を感じられていない教員もいた。今後も教員間で日々話し合いながら実践していくことが求められる。
2	地域社会との連携	① 地域にある学校の児童生徒や老人福祉施設、公民館等を利用する地域の方々との触れ合いや活動を共に行うことを通して児童生徒の情操を豊かにし、学校生活をより良いものにする。	総務課	令和4年度は小学部が門前東小学校と2回、門前西小学校と1回の交流を行った。中学部、高等部については以前は門前高校の生徒や公民館を利用する方々と共に活動を行っていたが、近年は一緒に活動する機会が減少している。そのため、地域への理解が進んでいない。	【満足度指標】（地域の方々） 地域にある学校の児童生徒や老人福祉施設、公民館等を利用している方々が本校への理解を示した割合が	地域の児童生徒や教員、老人福祉施設、公民館等を利用している方々が本校への理解を示した割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。 【達成目標B以上】	門前東小学校との交流、総持寺や児童館での活動をそれぞれ1回実施。アンケートは未実施のため評価はD。 【D：60%未満である】	交流後の門前東小児童の手紙には「交流会に招待してくれてありがとう。」「いろいろ準備してくれてありがとう。」等の言葉も多く、本校の児童が頑張っている様子が伝わったと考えられる。しかし、公民館の方々から児童生徒の実態について質問を受けることもあった。2学期には門前東小との2回目の交流や門前西小、老人福祉施設との交流、公民館での活動も行い本校への理解が深まるよう努める。
3	安心・安全な学校作り	① 学校生活や日常生活の中で想定される安全管理、安全意識への理解を深め、冷静に対応できるよう繰り返し指導や訓練を実施する。教職員においては、危機管理意識を高め、実践的な技能をもち危機に冷静に対応できるようにする。	生活支援課	令和4年度は、避難訓練を4回、引き渡し訓練や防災食の試食等保護者との活動を2回実施し、防災リュックの整備も図った。危機は学校内だけで対応できる場合もある。重大な危機が発生した場合は、保護者はもちろん、門前高校、地域との連携が必要となるが十分とは言えず、家庭での備えについても共有する機会が設けられていない。	【成果指標】（保護者） 防災に関する取り組みや訓練について情報発信し、家庭で防災に備えた取り組みをすすめている。	防災に関する取り組みや訓練について情報を発信し、各家庭で防災に備えた取り組みをすすめている割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。 【達成目標B以上】	防災に関するアンケートを実施。家庭で防災に備えた取り組みをしている割合は47.4%であり、評価はD 【D：60%未満である】	防災に関するアンケートを行った結果、自然災害に対して不安を感じているが、家庭での対策を何からしてよいか分からないという回答が半数を占めていた。学校での取組を保護者に発信したり、学校保健委員会でテーマに取り上げたりして、防災の意識を高めるような機会を設ける。
		② 児童生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、安心安全に端末を使用することができる。		GIGAスクール構想によって整備された1人1台端末等を活用した学習活動が行われているが、児童生徒にルールやマナーについて理解を促す必要がある。	【努力指標】（教員） 端末やインターネットの特性と個人情報の扱い方について児童生徒に指導している。	端末やインターネットの特性やモラルについて児童生徒に指導している教員の割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。 【達成目標B以上】	教員にアンケートを実施。その結果から、端末やインターネットの特性やモラルについて児童生徒に指導している教員の割合は66.7%であり評価はC。 【C：60%以上である。】	教員のアンケート結果から、モラルや特性に関する指導内容にばらつきがあることが分かった。児童生徒が、安全に賢く、インターネットを活用する力を身に付けつるために、その必要な指導内容を示し、すべての内容について指導をするよう呼びかける。